

令和の時代を迎えて

理事長 佐藤和明

令和の時代を迎えた新年度の総会におきまして、当水倶楽部の新役員が選任され、引き続き理事長の職を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。2年前の役員改選の時はかなりのメンバーの入れ替えがありました。今回は小規模の入れ替えとなっています。現執行部が引き続き任務に励むように信任されたといふように解釈していますが、その責務は容易ではないことは言うまでもありません。



昨年度は水倶楽部の活動への要望あるいは参加の意向について会員の皆さまにアンケートをお願いしました。多くの皆さまからご回答ならびに貴重なご意見をいただきまして感謝しております。お寄せいただいたご意見や具体的なお提案はできるだけ今後の活動に反映するようにしていきます。そうした中でもより若い世代の会員の確保に努力すべきというご意見が複数の方から寄せられました。尤もなご指摘であると思います。しかしながら実際に50代の皆さんにコンタクトしてみますと、多忙を極めておられる方が殆どで、それよりも若い皆さんはご家庭を含めて多忙、まさに働き方改革の核心にせまることになります。そうした多忙の中でも月に1度くらいは職場の垣根を越えて活動の輪を広げることは、あなたの60代、70代の人生設計の基礎となりますよ、と言っていくのかなと思っています。

令和の時代になると同時に団塊の世代が70代を迎えています。当水倶楽部においては、団塊の世代のパワーをなお集約するとともに、より若い世代との交流を深めていきたいと思えます。時間的に余裕のある年上のメンバーが他のメンバーの活動を常に助け支援していくということを心掛けていきます。そういう世代間の交流への慮りはこれからの人生100年の時代にマッチしているように思います。言うは易し・・・ですが、言行一致に励みます。

2019年度通常総会報告

理事・事務局長 押領司重昭

令和元年度の通常総会が、6月21日（金）測量地質健康保険会館大会議室（東京都豊島区西池袋）において開催されました。

今回の審議事項は、次のとおりです。

1. 第1号議案 平成30年度事業報告、収支決算
2. 第2号議案 令和元年度事業計画案、収支予算案
3. 第3号議案 役員、監事の選任

正会員数91名のうち、委任状を含め62名の方に出席いただきました。

会議に先立ち佐藤理事長から、2003年の発足から今年で15年周年を迎え令和の時代となり、定款で定めている水倶楽部の活動目的である「一般市民に対して、環境保全についての知識の普及と啓発に関する事業を行い、環境保全事業の推進に寄与すること」を再認識し、活動の継続に努めていきたいとの挨拶がありました。



続いて、議事に入り、各議案が事務局から説明され、夫々承認をいただきました。

第2部の講演会は、本会会員で九州大学高等研究院特別顧問・名誉教授の楠田哲也氏から「黄河の水問題－水利用からみて－」と題し、黄河の様相、黄河流域の気候と土砂流出、黄河流域の土地と水の利用特性、水利用の効率化とその課題を豊富な資料とデータを基に講演していただきました。日本の河川では、考えられない事象や課題など、大変興味深い話で、短い時間では勿体無いようなお話でした。

第3部は、池袋駅近辺に会場を移し、来賓として国土交通省下水道部長森岡泰裕様、日本下水道協会理事長岡久宏史様、日本下水道事業団理事長辻原俊博様に参加していただき、多くの会員が参加し懇親を深めることができました。

最後になりますが、役員改選にともない新たな執行部体制でスタートすることになりました。また、私自身も理事長から事務局長の指名を受けました。引き続き、当倶楽部の活動にご協力、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

新役員自己紹介

阿部洋一理事

この度の総会で理事に選任頂きました阿部洋一です。大学院の2年時に当時の建設省土木研究所下水道部でご指導を頂き、日本下水道協会での2年間の勤務を経て、1978年に日本工営㈱に入社しました。最初の20年間は下水道分野でのコンサルタントサービスを通じての事業拡大、次の10年間は国内の支店や事業部でのコンサルタント事業に係る事業運営、そして最後の10年間は経営や技術監査等に携わり、一昨年9月末に退職しました。



現在は、日本工営40年間のコンサルタント業の経験を活かし、コンサルタントにおける品質管理や事業運営等のアドバイス業務を、ゴルフ共々楽しんでいきます。

当倶楽部は、国や自治体出身者の方々を主体とした歴史のある格調高い団体であります。コンサルタント出身者がどの程度お役に立てるか判りませんが、先輩各位のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

中尾正和監事

この度監事に任命された中尾です。7人兄弟の末っ子として下関に生まれ、小学校3年の途中で福岡に転校、小学校6年の時に門司へ、そこが最終の実家になりました。幼稚園には行かなかつた代わりに、四つの小学校を経験しました。昭和



和31年から33年まで福岡にいたので、西鉄ライオンズの3連勝を目の当たりにしました。当時は運動会が11月頃に開かれていて、その練習をしながら、先生自ら校庭に向けたスピーカでラジオから流れるライオンズの活躍を楽しんだものです。昭和28年には梅雨前線と台風が重なった大水害に遭い、短い間ですが避難所生活も経験しました。

職歴としては、助手が1年、下水道事業団に27年、PCIに4年、現在所属しているTECインターナショナルでは15年目の勤務です。学生時代の見学旅行では東京都の落合処理場を訪れました。処理水がかなりの落差で神田川に放流されていて、結構な量の泡が風に流されて近くの住居に飛んでいき、洗濯物にも付着していたようです。あの泡を何とかできないか、と考えたのが下水道を生業とするようになったきっかけです。もうひとつ、私の父が生まれた明治33年は旧下水道法が制定された年です。これはこじつけですが。

1979年には初めての海外旅行・出張(行先はアラブ首長国連邦とクウェート)を、短期ですが経験しました。それで目覚めたわけではないのですが、足掛け40年近く海外業務に携わることになりました。40才の誕生日はインドネシアで、50才はインドで、60才はパキスタンでそれぞれ迎えました。残念ながら70才の時は日本にいました。これから節目の10年をどこで迎えるか楽しみです。延べ最長滞在はアルバニアでの5年半で、半常駐でした。

このような状況から国内の下水道事情には疎くなり、浦島太郎になっていました。本倶楽部に入会したのは、最近の下水道事情を知りたいというのが主な動機です。監事の任務に耐えられるかどうかやや疑問ですが、皆様のご支援を賜りながら何とか全うする所存です。どうかよろしく願いいたします。

北大を退職、今後は中小下水道のために

高橋正宏

この3月に北海道大学を退職しました。現役時代は建設省土木研究所や日本下水道事業団大阪支社などで、中小下水道の計画、建設を推進し、いまや現有施設規模3,000m³/日以下の下水処理場が50%を占めるようになりました。実際の流入下水量は、施設規模の半分程度というところも多いと思われます。これらの、中小下水道は、急激な人口減少による使用料収入の減少と、規模の効果が及ばないことからくる高めの処理原価、将来の改築更新費用の捻出など、多くの問題を抱えております。人口が減少するのであれば、戸別浄化槽に転換すべきという議論もあるかと思ひます。しかし、航空写真に示す北海道士幌町の市街地のように、役場、病院、学校などが集積した市街地では下水の集合処理が必須です。

わが国では、政令市の大規模下水道も、士幌町のような1,000m³/日未満の小規模下水道も、同じような計画手法で、同じ規制を受けていますが、欧米ではそのようなことはありません。北大を退職しこの4月から「中小下水道未来構想研究所」を設立して中小下水道の将来に少しでも貢献できるよう活動していく所存です。この研究所では、中小下水道の在り方を、既存施策にとらわれずに考え直し、未来に向けて持続可能な施策、技術を提案していく予定です。



北海道士幌町市街地の航空写真(著者撮影)

酔童感話 第37話 老後資金をどうしよう？

(別題；国家予算はなぜ増える？)

伊達萩丸

最近思うのは、「自分の老後資金をどうしよう？」という事。萩丸は、水倶楽部会員中で「少数の？」現役世代？実際、定年の60歳まで10年近くある。『だったらさっさと働いて、金を稼げ！』という事だろうが、諸般の事情で10年前に早期退職。

大した資格も無い上、ブランクもあり、年齢的にも厳しい。かような事由で、ハローワークでも「一見さんお断り」状態。さすがに再就職が厳しい。何とか現状打破しようと「技術士試験」にここ毎年挑戦しているが、受験法の改定で年々合格が厳しくなり、現在の合格率は、全分野総計合格率「合格者/受験者≒約7～8%」で、萩丸はかすりもしない。会員の皆様は、「技術士」の方が多いが、実際「どうやって資格取得出来たの？」と言う感じ。皆様方が優秀、かつ萩丸の努力不足としか言い様が無いのが辛い…。

さて、昨今話題は、『老後生活が年金受給だけでは¥2,000万円不足する』という試算。この前提条件は、専業主婦での夫婦二人の老後家庭が「ご主人が定年退職を迎えた場合」の話。ご主人が定年まで働き退職金を受取り、「年金を満額受給」した場合。萩丸はこのままだと、定年まで無職。退職金は受取り済。年金受給まで10年以上という状況。既に貯金切崩し中で「何とかして稼がなきゃ！」という感じ。ああそれなのに、10月からは消費税増税。たまらない(T_T)。お金が無いのは切ないなあ。現時点で既に年金受給をされている皆様方もそう思いませんか？金銭的余裕＝精神的余裕に繋がると思うのだが。

思うに、なぜ「国家予算」は毎年増大するのだろうか？「年度末調整」と言っては、3月に新規事業開始。「余った当初予算」を懸命に消化するのはなぜ？「当初予算が余った」ならば「国庫に返納」し、「税金減額」や、翌年度予算への「繰越金」に充当、翌年度国家予算を少しでも減額して欲しい。納税世代は切実だ。国民人口「特に納税世代」が減るのだから、年々予算も減額すべきと思考する。日本のインフラ整備はほぼ完了状態。国家予算の減額を開始しないと、国民一人当りの税負担が年々増加する一方だと思うが。特に、所得弱者への税負担は軽減して欲しいと切に願う。萩丸の一人よがり過ぎるか？

参考：

「ついに年金不足を政府が明言」：

<https://www.mag2.com/p/money/685253>

「年金って？老後のお金知るべき事」：

https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/pension-system/?n_cid=NMAIL007

「年金あてにするな……突き放された「老後2000万円」世代の対抗策は？」：

<https://www.mag2.com/p/money/692460>

編集幹事のあと整理

- 会員だよりに新投稿の高橋正宏氏は新規入会会員です。最近入会された会員の皆様は「自己紹介代わりに」投稿されるのも有意義かと思います。
- 「ごみ収集という仕事」藤井誠一郎著を読みました。大学准教授の新宿区清掃センターでのごみ収集車体験記です。パッカー車へのゴミ袋の積み込み作業が過酷な作業であることがわかります。とくに水切りをしていない生ゴミは重く、飛び散ると不衛生、竹串などの危険物の存在などごみ内容物の「困った実情」がわかりました。
- 廃棄物処理と下水処理は社会の静脈部門を受け持ちますが、静脈血管のようにパイプ輸送されているのは下水管だけです。高度に機械化された日本社会でごみ収集の人力作業が過酷な状態に残っているのはおかしいと思いませんか？
- そうです、し尿のバキューム車収集が下水管での収集になった（し尿が下水になった）と同様のことが必要です。生ゴミ（と紙おむつ）の下水管輸送です。ディスパーザーで粉砕するのは流しやすくするためです。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



パナマ運河ガソン閘門からカリブ海側を望む

